

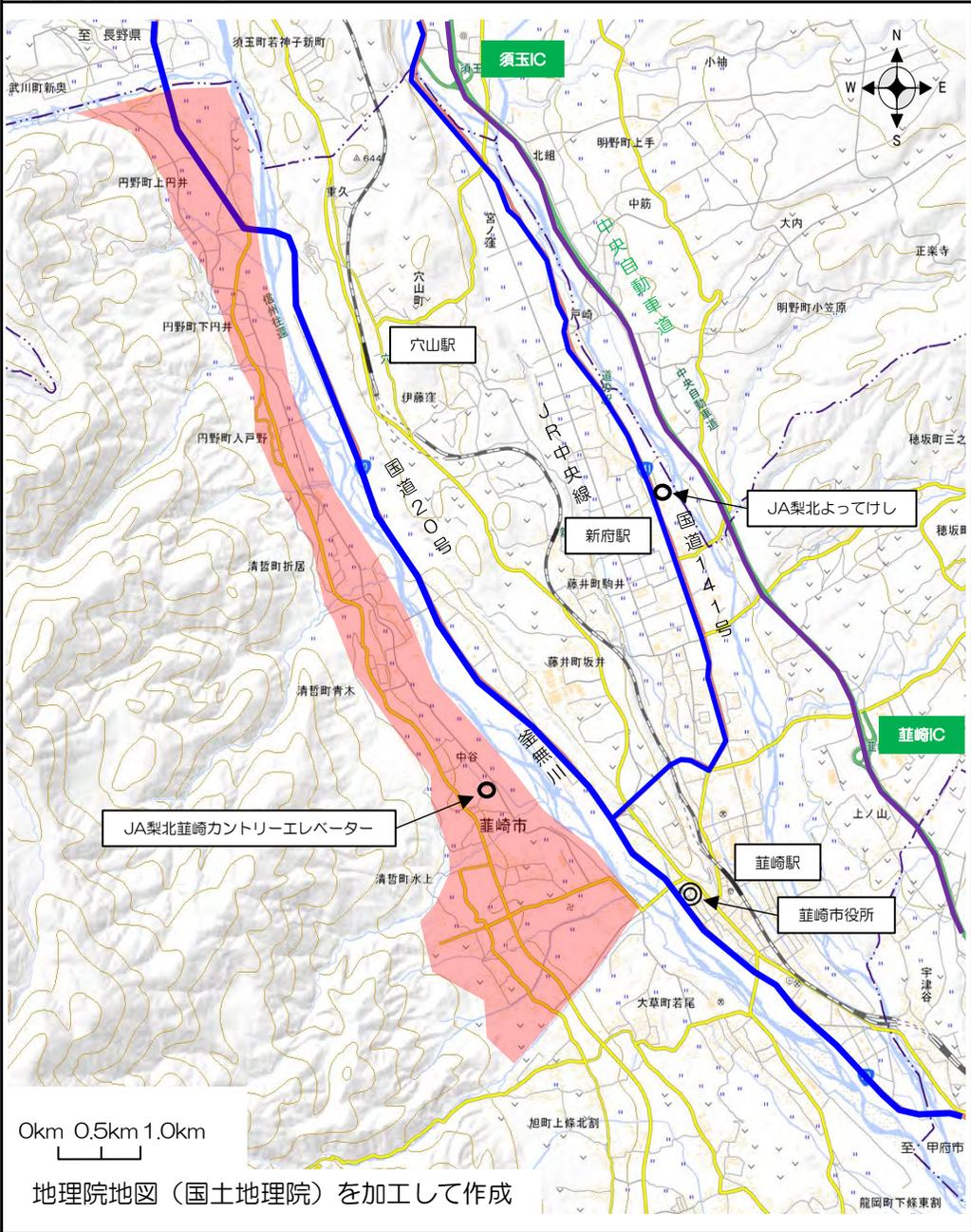
令和6年度 公共事業再評価調書

(区分) (国補) ・ 県単

1. 事業説明シート

事業名	中山間地域整備事業 [中山間地域総合整備事業(国補)]		事業箇所	韮崎市 円野町、清哲町、神山町	地区名	武田の里	事業主体	山梨県						
計画期間	当初計画 H25~R2	現計画 H25~R6	変更計画 H25~R13	④特記事項(関連事業概要等) なし										
総事業費	3,900 百万円	5,060 百万円	8,261 百万円	⑤これまでの評価状況(平成24年度事前評価) 本事業は、農業生産基盤の整備を行うとともに、農村生活環境基盤等の整備を併せて総合的に行うことで、生産基盤整備の遅れに伴う生産効率の低下、鳥獣被害等による農地の遊休化を防止するとともに、生活環境の改善による定住化が期待できる事業であり、実施が妥当である。										
(1) 事業の概要														
①事業目的及び効果 本地区は、韮崎市西部の釜無川右岸に位置する水田地帯であり、食味が高い評価を得ている「梨北米」の産地として確立されている。 しかしながら、農業従事者の後継者不足や未整備な生産基盤、さらに野生獣による被害に起因し、耕作放棄地が増加するなどの課題を抱えていた。また、生活環境基盤の整備も立ち後れており、特に地区内の上水道は沢から取水している簡易水道であり、施設の老朽化とともに濁りが発生するなど、生活環境に不安要素が多い状況である。 本事業によって農業生産基盤の整備を効率的に行うとともに生活環境の整備を総合的に行うことにより、農業・農村の活性化を図り、地域における定住の促進を目的として事業を実施している。														
<table border="0"> <tr> <td>□主要目標</td> <td>○中山間地域等の農村生活・生産機能の向上 ・農業所得増加額 1,451千円/ha\geq1,322千円/ha※(※評価基準値)</td> </tr> <tr> <td>□副次目標</td> <td>○集落間・小規模拠点施設へのアクセス向上 ○農業用排水能力の向上 ○鳥獣被害の軽減</td> </tr> <tr> <td>□副次効果</td> <td>○遊休農地の解消 ○飲雑用水の安定供給</td> </tr> </table>									□主要目標	○中山間地域等の農村生活・生産機能の向上 ・農業所得増加額 1,451千円/ha \geq 1,322千円/ha※(※評価基準値)	□副次目標	○集落間・小規模拠点施設へのアクセス向上 ○農業用排水能力の向上 ○鳥獣被害の軽減	□副次効果	○遊休農地の解消 ○飲雑用水の安定供給
□主要目標	○中山間地域等の農村生活・生産機能の向上 ・農業所得増加額 1,451千円/ha \geq 1,322千円/ha※(※評価基準値)													
□副次目標	○集落間・小規模拠点施設へのアクセス向上 ○農業用排水能力の向上 ○鳥獣被害の軽減													
□副次効果	○遊休農地の解消 ○飲雑用水の安定供給													
②事業概要														
		現計画		変更計画										
	用排水路	L=7,760m	→	L=7,855m										
	農道	L=8,320m	→	L=8,352m										
	区画整理	A=23.2ha	→	A=23.2ha										
	鳥獣害防止施設	L=13,500m	→	L=13,500m										
	農業集落道	L=2,540m	→	L=2,540m										
	農業集落排水路	L=2,150m	→	L=2,150m										
	営農飲雑用水	N=8箇所	→	N=8箇所										
	集落防災	N=5箇所	→	N=5箇所										
③全体計画														
		令和5年度まで		令和6年度 (評価実施年度)		令和7年度以降								
現計画	工事内容	用排水路 L=7,540m 農道 L=7,801m 区画整理 A=20.6ha 鳥獣害防止施設 L=13,500m 農業集落道 L=2,530m 農業集落排水路 L=2,150m 営農飲雑用水 N=7箇所 集落防災 N=5箇所		用排水路 L=220m 農道 L=519m 区画整理 A=2.6ha 農業集落道 L=10m 営農飲雑用水 1箇所		-								
	事業費	4,510 百万円		550 百万円		-								
変更計画	工事内容	用排水路 L=2,028m 農道 L=2,762m 区画整理 A=16.0ha 鳥獣害防止施設 L=11,995m 農業集落道 L=205m 農業集落排水路 L=1,157m 営農飲雑用水 1箇所		用排水路 L=220m 農道 L=519m 区画整理 A=2.6ha 農業集落道 L=10m 営農飲雑用水 1箇所		用排水路 L=5,607m 農道 L=5,071m 区画整理 A=4.6ha 鳥獣害防止施設 L=1,505m 農業集落道 L=2,325m 農業集落排水路 L=993m 営農飲雑用水 N=6箇所 集落防災 N=5箇所								
	事業費	3,677 百万円		490 百万円		4,094 百万円								

(2) 事業位置図等



※現計画欄は計画値、変更計画欄は前年度までは実績値、当年度以降は計画値を記入。

2.評価シート（1）

（1）事業を巡る社会経済情勢等の変化

（今回の再評価で変更がある場合、変更事項を説明するために必要な内容）

①地域・住民の意向状況

・営農飲雑用水施設をはじめ、用排水路、農道等の未着手路線については、各路線とも施設の老朽化が著しく、強い改修の要望があるため、早期整備が求められている。

②産業・経済情勢

・なし

③国等の方針

・なし

④上位計画・関連事業計画等

・やまなし農業基本計画（令和6年1月策定）

⑤自然環境条件等

・なし

⑥その他

・事業計画当初は、施設の長寿命化のため既存施設を改修する計画としていたが、全国各地で近年頻発する地震等の影響でライフラインである水の供給ができなくなることを避けるため、耐震化等、施設の機能向上を新たに見込むこととした。

（2）評価時点の費用対効果分析

項 目		着手時点	変更計画時点
総事業費		3,900 百万円	8,261 百万円
工 期		H25～R2	H25～R13
評価基準年		H25	R6
経済 効 率 性	費用	4,780 百万円	10,565 百万円
	建設費	4,780 百万円	10,565 百万円
	便益	9,480 百万円	20,069 百万円
	生活用水確保効果	3,520 百万円	11,254 百万円
	作物生産効果	1,940 百万円	3,593 百万円
	走行経費節減効果	2,180 百万円	3,561 百万円
その他※	1,840 百万円	1,661 百万円	
B/C		2.0	1.9

費用便益分析マニュアルにより算出 採択基準値1.0以上

※その他は、営農経費節減効果、品質向上効果、維持管理費節減効果、生活環境改善効果、災害時応急対策効果、国産農産物安定供給効果、地積確定効果

（3）これまでの計画変更等の概要

- ・鳥獣害防止施設のルートを見直したことに伴う事業量及び事業費の増
- ・物価高騰や労務単価の上昇を要因とする事業費の増
- ・埋蔵文化財調査の影響により、区画整理の着手に不測の日数を要したため、事業工期を令和6年度までとした。

	当初	現計画
（事業費）	3,900百万円	→ 5,060百万円
（計画期間）	4年延長	

評価シート(2)

(4) 事業進捗状況及び見込み

①進捗率

別表のとおり。

R6年度進捗率(現計画)100%→(実績)82.4%→(変更計画)50.5%

②進捗率実績が計画と相違している理由

区画整理において、文化財調査に不測の時間を要している。また、営農飲雑用水施設において、詳細調査の結果、耐震性を有していない施設の改修が必要となり、整備内容の検討や地元との調整に時間を要している。

③総事業費の変更内容

変更工種等	事業費増減	変更理由
用排水路	70 百万円 増	山間部を通る水路について、地山に不安定な箇所が見られたことから、土留構造物の改修の必要性が生じたため、事業費の増。
農道	212 百万円 増	用地の制限に伴う線形の見直しにより、路側及び土留構造物が必要となったことによる事業費の増。
区画整理	480 百万円 増	急峻な地形に合わせた換地計画に見直したところ、当初計画に対し道路及び水路延長が増になったことによる事業費の増。
営農飲雑用水	2,389 百万円 増	災害時等においても安定的に用水を確保するため、配水区域の再編による管路の延長増や管径変更及び耐震性が不足する配水池の整備が必要になったことによる事業費の増。
農業集落道路	50 百万円 増	用地の制限に伴う線形の見直しにより、路側及び土留構造物が必要となったことによる事業費の増。
合計	3,201 百万円 増	

④事業期間の変更理由及び進捗予定

区画整理において、想定以上の文化財が出土したことにより、文化財調査の実施に期間を要したことと、営農飲雑用水施設において、機能向上などの整備方針の決定及び、地元との調整に時間を要し進捗が遅れていた。

しかしながら、文化財調査も概ね完了し、営農飲雑用水については関係者と整備内容の調整が整ったことから、残路線についても計画的かつ効率的な実施に努め、令和13年度の完了を予定している。

⑤今後の事業執行における留意点

なし

(5) 環境負荷等への配慮

なし

(6) コスト縮減の可能性

なし

(7) 代替案立案の可能性

なし

(8) 所管部の今後の方針 継続・~~(見直し継続)~~・その他()

(理由)

残された路線については、地域からの整備要望も強く、安定的な用水の確保、農業の効率化による産地の維持や、生活環境の改善による定住化に不可欠な基盤整備であることから、事業を継続し令和13年度の完了を予定している。

○別表-進捗率(事業費ベース)

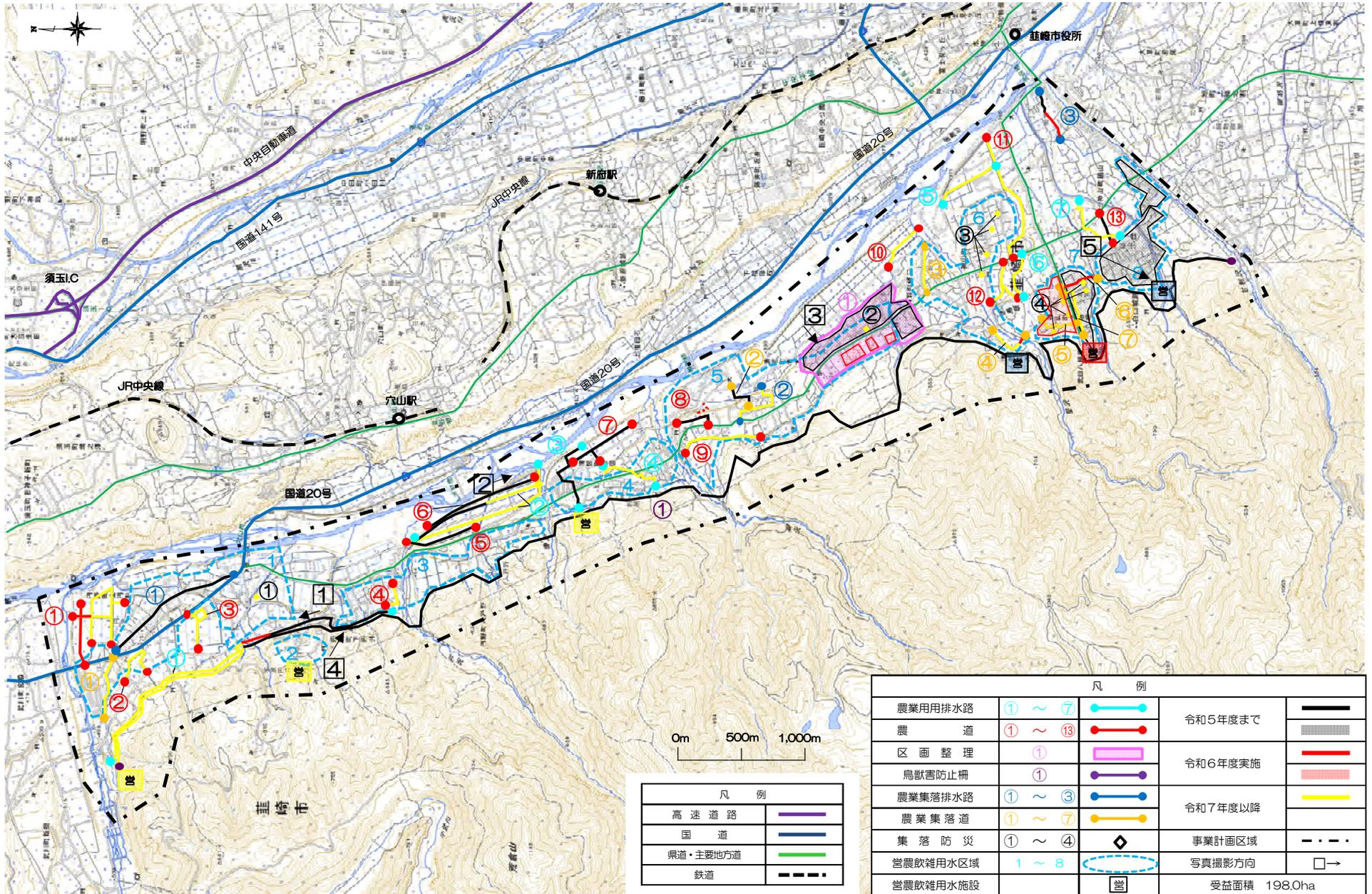
算出方法：【上段】現計画の計画事業費/総事業費×100 【中段】現計画の実績事業費/総事業費×100 【下段】変更計画の計画事業費/総事業費×100 単位：%

現	年度	*H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	*R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	
	計画		5.9	10.0	12.6	15.7	23.9	30.4	37.0	45.7	56.5	73.9	89.1	100.0							
実績		5.9	10.0	12.6	15.7	22.1	26.5	31.2	36.9	49.6	63.6	72.7	82.4								
変更計画													50.5	57.1	65.8	74.4	82.4	90.4	95.7	100.0	

*事業着手年度又は評価年度

*R6年度の実績は見込み

3.添付資料シート(1)



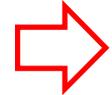
凡例	
高速道路	
国道	
県道・主要地方道	
鉄道	

凡例				
農業用排水路	① ~ ⑦		令和5年度まで	
農道	① ~ ⑬		令和6年度実施	
区画整理	①		令和7年度以降	
鳥獣害防止柵	①			
農業集落排水路	① ~ ③			
農業集落道	① ~ ⑦			
集落防災	① ~ ④		事業計画区域	
営農飲雑用水区域	1 ~ 8		写真撮影方向	
営農飲雑用水施設			受益面積 198.0ha	

3.添付資料シート(2)

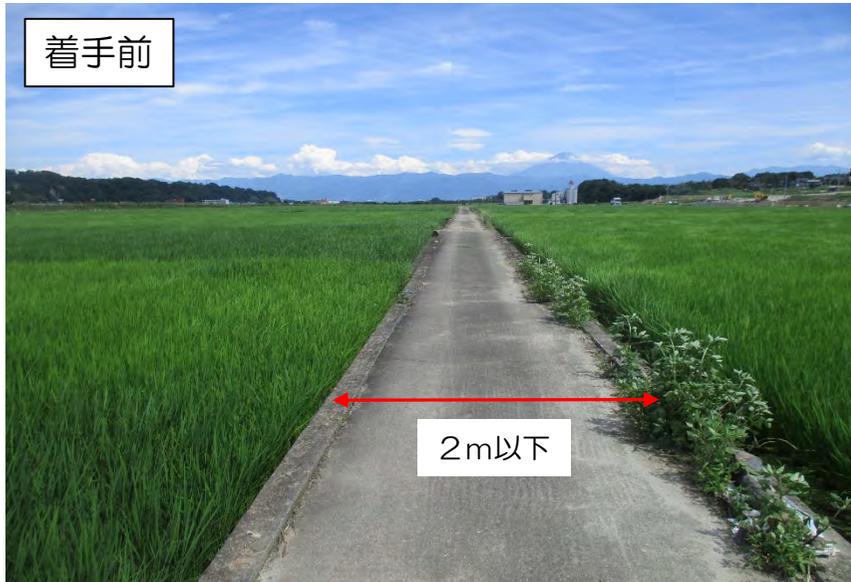


1【用排水路】
効果説明資料

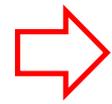


施設の老朽化が進み、漏水しているため用水供給が不安定な状態で、営農に支障を来していた。

用水が安定供給され、農作物の品質が向上するとともに、維持管理に要する労力が軽減されている。



2【農道】
効果説明資料

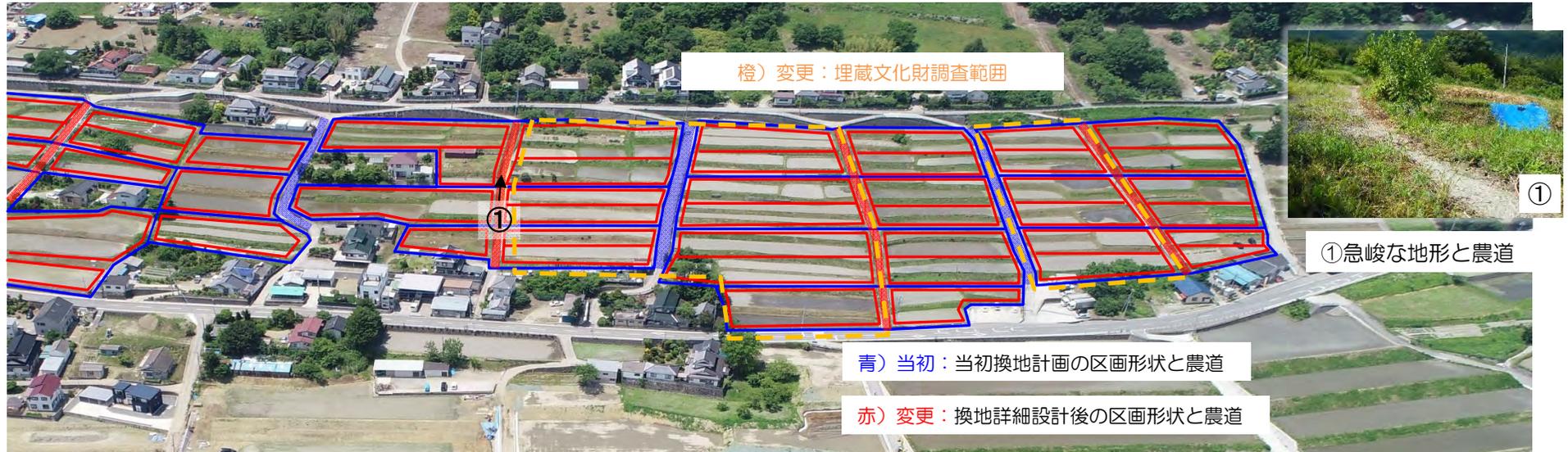


幅員が狭く、車両のすれ違いができないため通行に支障を来していた。

車両のすれ違いが出来るようになり、通作の安全性が確保されるとともに、農地へのスムーズな乗り入れが可能となり農作業の利便性が大幅に向上している。

3.添付資料シート (3)

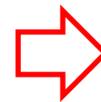
3【区画整理】 事業費及び工期変更説明資料



急峻な地形条件にあわせ農地への出入りを考慮した換地計画に見直しによる道路及び水路の増となった。
また、想定以上の文化財が出土したことにより、調査期間を要したため、工期を延期した。



4【鳥獣害防止施設】 効果説明資料



サル・イノシシ・シカによる食害等により、耕作者の
営農意欲の低下を招いていた。

鳥獣害防止施設の整備により農作物被害が軽減され
るとともに、安心できる営農環境及び生活環境が整え
られ、耕作者の営農意欲が向上した。

3.添付資料シート(4)

営農飲雑用水施設配水区域①

事業費及び工期変更
説明資料

改修延長 L=5.0km → 7.6km

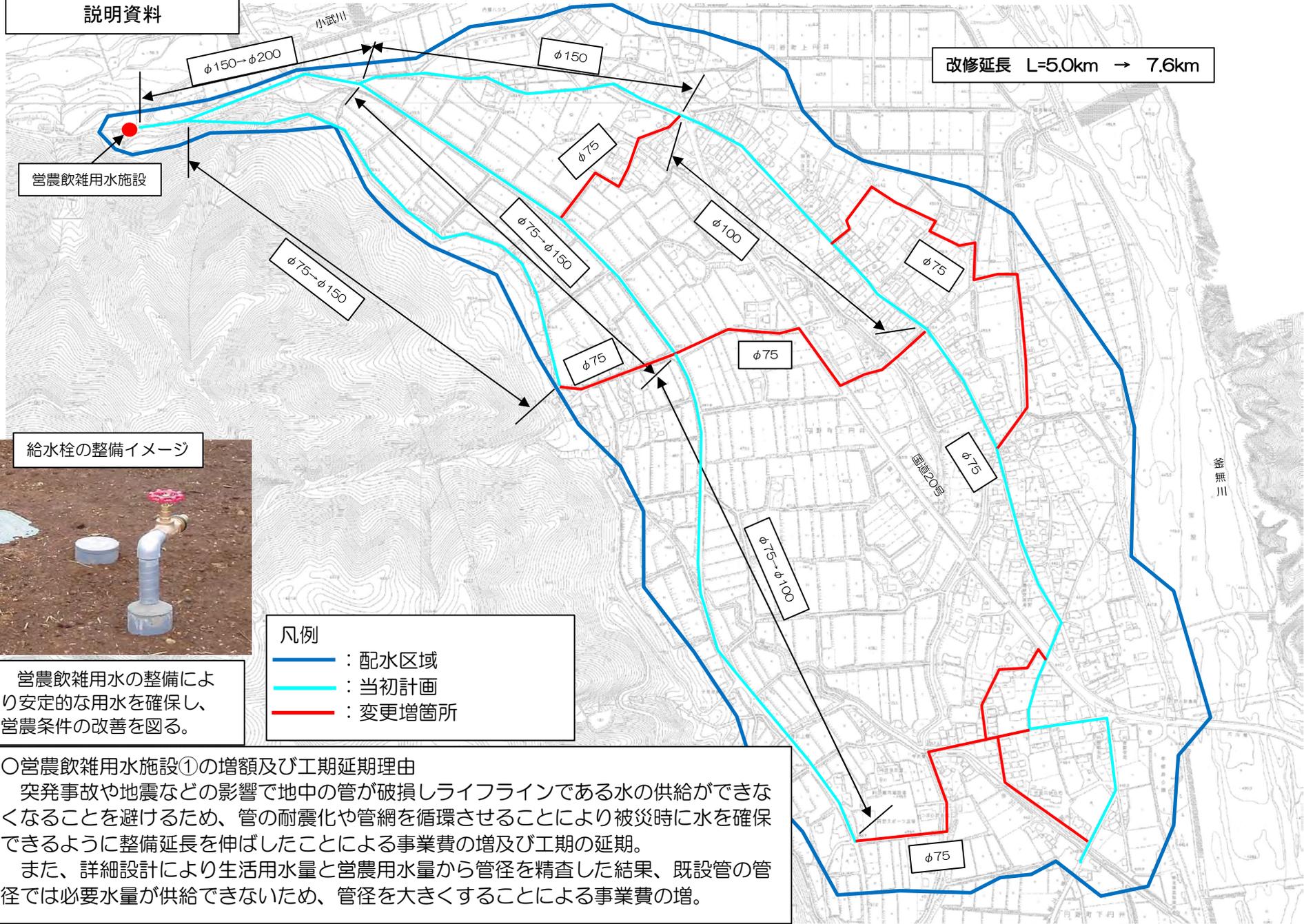
営農飲雑用水施設

給水栓の整備イメージ



- 凡例
- : 配水区域
 - : 当初計画
 - : 変更増箇所

○営農飲雑用水施設①の増額及び工期延期理由
 突発事故や地震などの影響で地中の管が破損しライフラインである水の供給ができなくなることを避けるため、管の耐震化や管網を循環させることにより被災時に水を確保できるように整備延長を伸ばしたことによる事業費の増及び工期の延期。
 また、詳細設計により生活用水量と営農用水量から管径を精査した結果、既設管の管径では必要水量が供給できないため、管径を大きくすることによる事業費の増。



3.添付資料シート(5)

営農飲雑用水施設②

事業費及び工期変更
説明資料



施設 全景



補修状況

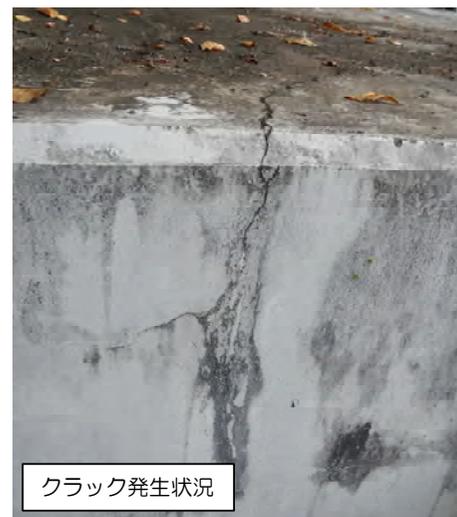
5 写真は鍋山地区の配水池施設

○営農飲雑用水施設②の増額及び工期延期理由

営農飲雑用水の8施設は、簡易水道として昭和4年から26年にかけて創設認可され、地域の生活基盤の重要な施設として、飲用水として利用される他、育苗、防除、農機具の洗浄など営農雑用水として利用されている。

各施設は随時部分的な改修は行われてきたものの、大規模な更新整備が実施されず、ほぼ創設時の形態を維持したまま今日に至っている施設もあり、これらの施設を調査したところ壁面にはクラックが発生しており、耐震性も確保されていないことが確認された。(鍋山、武田御杉、北宮地、上円井、宇波円井、折井 写真は鍋山)

これらの施設について地震等の災害時においても安定した用水供給を可能とするため、配水池の整備を追加したことによる事業費の増及び工期の延期。



クラック発生状況

3.添付資料シート (6)

JA梨北よってけし



JA梨北の農産物直売所。武田の里地区で生産された米や野菜が販売されている。

JA梨北よってけし



地元住民のほか、多くの観光客も訪れており、連日賑わいをみせている。

JA梨北葎崎カントリーエレベーター



本地区で生産された米は、「梨北米」として出荷され、食味が高い評価を得ている

都市農村交流



本事業の導入により地元農家の営農意欲も向上し、田んぼのオーナー制度などに取り組み、都市農村交流にもつながっている。

4.年度別事業費内訳表（変更計画の内容）

年度	変更事業費 (千円)	事業概要	進捗率 (%)
H25	297,000	設計業務一式、営農飲雑用水施設N=1箇所	3.6
H26	209,000	設計業務一式、鳥獣害防止施設L=4,119m	6.1
H27	132,000	設計業務一式、用排水路L=163m、農道L=465m、 鳥獣害防止施設L=1,287m	7.7
H28	154,000	設計業務一式、用排水路L=701m、農道L=237m、 鳥獣害防止施設L=1,172m、集落排水L=308m	9.6
H29	324,944	設計業務一式、農道L=344m、 鳥獣害防止施設L=2,833m、集落排水L=643m、集落道L=205m	13.5
H30	223,300	設計業務一式、用排水路L=189m、 区画整理A=3.2ha、鳥獣害防止施設L=672m	16.2
R1	238,700	設計業務一式 区画整理A=0.9ha、鳥獣害防止施設L=892m	19.1
R2	286,000	設計業務一式、用排水路L=454m、農道L=1,716m、 鳥獣害防止施設L=1,020m	22.6
R3	646,800	設計業務一式、用排水路L=200m、区画整理A=3.3ha、 営農飲雑用水施設N=1箇所、営農飲雑用水管路工一式	30.4
R4	705,980	設計業務一式区画整理A=6.4ha、営農飲雑用水管路工一式	39.0
R5	460,020	設計業務一式、用排水路L=321m、区画整理A=2.2ha、 集落排水L=206m、営農飲雑用水施設N=1箇所、営農飲雑用水管路工一式	44.5
R6	490,000	設計業務一式、用排水路L=220m、農道L=519m、区画整理A=2.6ha、集落道 L=10m、営農飲雑用水管路工一式	50.5
R7	550,000	設計業務一式、用排水路L=1300m、農道L=1201m、 区画整理A=2.0ha、集落道L=190m、集落排水L=156m、営農飲雑用水管路工一式	57.1
R8	715,000	設計業務一式、用排水路L=1400m、農道L=1270m、 区画整理A=1.9ha、鳥獣害防止施設L=500m、集落道L=260m、集落排水L=160m、 営農飲雑用水管路工一式	65.8
R9	715,000	設計業務一式、用排水路L=1500m、農道L=1300m、区画整理A=0.7ha、鳥獣害防止 施設L=500m、集落道L=300m、集落排水L=140m、営農飲雑用水施設N=1箇所、営 農飲雑用水管路工一式、集落防災施設N=1箇所	74.4
R10	660,000	設計業務一式、用排水路L=1407m、農道L=1300m、鳥獣害防止施設L=505m、集落 道L=400m、集落排水L=140m、営農飲雑用水施設N=1箇所、営農飲雑用水管路工一 式、集落防災施設N=1箇所	82.4
R11	660,000	設計業務一式、集落道L=450m、集落排水L=200m、営農飲雑用水施設N=1箇所、営農 飲雑用水管路工一式、集落防災施設N=1箇所	90.4
R12	440,000	設計業務一式、集落道L=425m、集落排水L=197m、営農飲雑用水管路工一式、集落防 災施設N=1箇所	95.7
R13	353,256	集落道L=300m、営農飲雑用水管路工一式、集落防災施設N=1箇所	100.0
合計	8,261,000		